

日本の小型鯨類調査研究についての進捗報告
 2015年4月から2016年3月
 (統計データは2015暦年)

とりまとめ

吉田英可

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 国際水産資源研究所

〒236-8648 神奈川県横浜市金沢区福浦 2-12-4

本報告は、2015年（暦年）の小型鯨類漁業の捕獲統計及び2015年4月から2016年3月までに水産研究・教育機構（以下、水研機構）国際水産資源研究所（以下、国際水研）及び農林水産省水産庁（以下、水産庁）が、他機関と協力して実施した調査研究を取り纏めたものであり、第66回国際捕鯨委員会科学委員会年次会合（以下、IWC/SC/66b）に提出した“National Progress reports”<https://portal.iwc.int/progressreportspublic>に含まれていない小型鯨類についての情報を示すものである。我が国は、小型鯨類の管理は国際捕鯨取締条約の対象外としている。

1.対象とした種および系群

標準和名	学名	海域/系群	関係する項目
イシイルカ	<i>Phocoenoides dalli</i>	太平洋沿岸, 日本海	2.1.1, 5.1, 5.2.2, 5.3, 8.1
スナメリ	<i>Neophocaena phocaenoides</i>	日本沿岸	2.1.1, 2.2, 5.2.2, 5.3, 8.1, 8.2
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	太平洋沿岸, 日本海	2.1.1, 3.1.3, 3.2, 4.2, 5.1, 5.2.2, 5.3
スジイルカ	<i>Stenella coeruleoalba</i>	太平洋沿岸	2.1.1, 4.2, 4.4, 5.1, 5.3
マダライルカ	<i>Stenella attenuata</i>	太平洋沿岸	2.1.1, 3.1.3, 3.2, 4.1, 4.4, 5.1
ハンドウイルカ	<i>Tursiops truncatus</i>	太平洋沿岸, 東シナ海	2.1.1, 3.1.2, 3.1.3, 4.1, 4.2, 4.4, 5.1, 5.3, 8.2
ハナゴンドウ	<i>Grampus griseus</i>	太平洋沿岸	2.1.1, 4.2, 4.4, 5.1, 5.3
コビレゴンドウ	<i>Globicephala macrorhynchus</i>	太平洋沿岸, 東シナ海	2.1.1, 4.2, 4.4, 5.1, 5.3
オキゴンドウ	<i>Pseudorca crassidens</i>	太平洋沿岸	2.1.1, 4.2, 5.1
シャチ	<i>Orcinus orca</i>	日本沿岸	2.1.1, 2.1.2, 8.1
ツチクジラ	<i>Berardius bairdii</i>	太平洋沿岸, オホーツク海, 日本海	2.1.1, 2.1.2, 4.2, 4.4, 5.1, 5.3, 8.1
その他の種類	-	日本沿岸	2.1.1, 4.1, 5.2.2, 5.3

2.目視データ

2.1 フィールドワーク

2.1.1 目視調査

国際水研と水産庁は、北太平洋において調査船による目視調査を2回実施した。使用した調査船はいずれも専用の鯨類観察台(トップバレル)を装備している。これら航海において、以下の小型鯨類を発見した。なお、大型鯨類の発見については、IWC/SC/66bに提出したNational Progress reportを参照されたい。

表 1. 2015年4月から2016年3月までに調査船目視調査で得られた小型鯨類の発見

鯨種	調査期間	海域	発見群数	担当機関
イシイルカ型イシイルカ	27/07/15-11/09/15	西部北太平洋	9	国際水研
カマイルカ	27/07/15-11/09/15	西部北太平洋	1	
スジイルカ	27/07/15-11/09/15	西部北太平洋	21	
マダライルカ	21/05/15-8/06/15	西部北太平洋	6	
	27/07/15-11/09/15		1	
マイルカ	27/07/15-11/09/15	西部北太平洋	3	
シワハイルカ	21/05/15-8/06/15	西部北太平洋	2	
	27/07/15-11/09/15		1	
ハンドウイルカ	21/05/15-8/06/15	西部北太平洋	5	
	27/07/15-11/09/15		3	
シャチ	21/05/15-8/06/15	西部北太平洋	3	
北方型コビレゴンドウ (タッパナガ)	27/07/15-11/09/15	西部北太平洋	5	
南方型コビレゴンドウ (マゴンドウ)	21/05/15-8/06/15	西部北太平洋	2	
	27/07/15-11/09/15		4	
オキゴンドウ	21/05/15-8/06/15	西部北太平洋	3	
ハナゴンドウ	21/05/15-8/06/15	西部北太平洋	2	
	27/07/15-11/09/15		13	
カズハゴンドウ	21/05/15-8/06/15	西部北太平洋	1	
	27/07/15-11/09/15		1	
ユメゴンドウ	21/05/15-8/06/15	西部北太平洋	2	
ツチクジラ	27/07/15-11/09/15	西部北太平洋	15	
アカボウクジラ	27/07/15-11/09/15	西部北太平洋	1	
オウギハクジラ	27/07/15-11/09/15	西部北太平洋	2	
タイヘイヨウアカボウモドキ	21/05/15-8/06/15	西部北太平洋	1	

上記発見は以下の2航海でなされた。

- 1) 東シナ海及び南西諸島周辺海域小型鯨類目視調査、俊鷹丸、2015年5月21日から6月8日
- 2) 太平洋ツチクジラ分布生態調査、第8開洋丸、2015年7月27日から9月11日

この他に、国際水研は、土佐湾ホエールウォッチング推進協議会(以下、協議会)の協力のもとに、協議会に所属する 10 隻のホエールウォッチング船を用い、2015 年 7 月に土佐湾南西部沿岸にて、ニタリクジラの目視調査を実施した。これらの船(5-10 トン)は、専用の観察台(トップバレル)を持たないため、これらの船による発見情報は上表に含めていないが、7 月に 5 日間調査が行われ、木白俊哉(国際水研*)と 6 名の補助調査員および延べ 10 名の漁業者(協議会メンバー)が乗船調査員を務め、ニタリクジラに加えて、ハセイルカ 2 群 330 頭の発見を記録した。(*現所属:水産研究・教育機構本部研究推進部)

また、国際水研は、沿岸域における鯨類の分布・発見情報を得るため 2 件の航空目視調査を実施した。2015 年 9 月 15-17 日に釧路沖海域において、宮下富夫・吉田英可(国際水研)・服部 薫(北海道区水産研究所)が、バブルウインドウを装着した双発小型飛行機に搭乗し、海上を高度 700 フィート、速度 135 ノットで移動しつつ探索した。1,519 海里を飛行する間にシャチ 1 群 1 頭、シロイルカ 1 群 1 頭、イシイルカ 64 群 219 頭、ネズミイルカ 11 群 30 頭を発見した。2015 年 7 月 30 日から 8 月 4 日にかけて、瀬戸内海においてスナメリに対する航空目視調査を実施した。吉田・中村清美(須磨海浜水族園)・相磯智美(市立しものせき水族館)・赤木 太(宮島水族館)・石川 恵(海遊館)が、単発高持翼のセスナ機に搭乗し、海上を高度 500 フィート、速度 80 ノットで移動しつつ探索した。1450 海里を飛行する間にスナメリを 203 群 354 頭発見した。他の鯨類の発見はなかった。

2.1.2 目視調査以外の発見データ

小型捕鯨業といるか漁業の操業において、漁場内における捕獲対象種を主とした鯨類の発見情報を、操業船から収集した(ツチクジラ、マゴンドウ、オキゴンドウ、マゴンドウ、ハナゴンドウ、スジイルカ、マダライルカ、カマイルカなど)。

また、2015 年 9 月から 10 月にかけて実施された JARPNII 釧路沖鯨類捕獲調査において、ツチクジラ 5 群 17 頭、シャチ 29 群 147 頭の発見を記録した。

2.2 解析および技術開発

金治佑(国際水研)は、過去の目視データを用いて、小型ハクジラ類の空間分布と資源量推定を行った。

吉田は、中村、相磯、赤木、石川とともに 2015 年夏季に実施された航空目視調査データを用い、瀬戸内海におけるスナメリの資源量推定値を更新した。

3. 標識データ

3.1 フィールドワーク

3.1.1 自然標識データ

自然標識は実施されなかった。

3.1.2 人工標識データ

国際水研は太地町立くじらの博物館との協力のもと、9 月 18 日から 2 月 11 日にかけて、太地追い込み漁業で捕獲されたハンドウイルカ 53 個体の背鰭にプラスチック製の簡易タグを装着し放流を行った。

3.1.3 テレメトリーデータ

金治は、5-6月に東シナ海でマダライルカとハンドウイルカ各1頭に、ポップアップアーカイバルトランスミッティング(PAT)タグ(miniPAT, Wildlife Computers 製)を装着した。タグの装着期間はそれぞれ11日間、10日間であった。

南川真吾(国際水研)は、8月に西部北太平洋(日本沿岸)で1頭のカマイルカに、PATタグ(miniPAT, Wildlife Computers 製)を装着した。タグの装着期間は7日間であった。

表 2.1. 2015年4月から2016年3月までに得られた小型鯨類のPATタグデータ.

鯨種	タグのタイプ	装着数	離脱浮上数	回収数	担当機関
マダライルカ	miniPAT	1	1	0	国際水研
ハンドウイルカ	miniPAT	1	1	0	国際水研
カマイルカ	miniPAT	1	1	0	国際水研

3.2 解析および技術開発

南川は、カマイルカ、ハンドウイルカ、マダライルカ各1頭に装着したPATタグから受信したデータの解析を進めた。

4.組織/生物学的試料の収集

4.1 バイオプシー標本

調査船による目視調査(東シナ海及び南西諸島周辺海域小型鯨類目視調査)中に、マダライルカ5片、ハンドウイルカ4片、シワハイルカ1片の計10片のバイオプシー標本を収集した。

表 3. 2015年4月から2016年3月までに得られた小型鯨類のバイオプシー標本

鯨種	海域/系群	採取 試料数	保管 (Y/N)	分析 試料数	保管 試料数	担当機関
マダライルカ	西部北太平洋	5	Y	0	5	国際水研
ハンドウイルカ	西部北太平洋	4	Y	0	4	国際水研
シワハイルカ	西部北太平洋	1	Y	0	1	国際水研

4.2 漁獲個体又は混獲個体からの標本

2015年4月から2016年3月までに得られた小型鯨類の漁獲個体からの標本を表4に示す。

小型捕鯨業におけるツチクジラの年間捕獲枠は、66頭であり、実操業期間は、日本海側沿岸で函館を基地として5月25日から6月25日まで、太平洋側沿岸で和田浦を基地とし6月20日から8月21日まで、鮎川を基地とし6月20日から8月31日までおよび10月31日から11月28日まで、オホーツク海側沿岸で網走を基地とし8月1日から8月13日までであった。計57頭(函館沖10頭、網走沖2頭、太平洋沿岸沖45頭)が、5隻の捕鯨船(正和丸、第8幸栄丸、第28大勝丸、第7勝丸、第51純友丸)によって捕獲された。全捕獲個体について、3名の調査員が、生物調査と試料採取を行なった。

北方型コビレゴンドウ(タッパナガ)の捕獲枠は36頭であり鮎川を基地とした2隻の捕鯨船(第8幸

栄丸、第 28 大勝丸) に対しツチクジラの操業期間中に捕獲が許可されたが、操業は行われなかった。

南方型コビレゴンドウ (マゴンドウ) についての小型捕鯨の捕獲枠も 36 頭であり、5 月 5 日から 8 月 21 日まで操業された。この間に、太地において正和丸が 4 頭、第 7 勝丸が 8 頭、第 51 純友丸が 3 頭、和田浦において第 51 純友丸が 5 頭を捕獲した。また、太地沖のマゴンドウの操業期間中に、オキゴンドウ 20 頭の捕獲枠も設定されたが、操業中に発見はなく、捕獲はなかった。捕獲された個体に対しては、調査員による生物調査と試料採取が行われた。

また、国際水研との契約に基づき、東海大学が食性研究のため、太地の小型捕鯨および突きん棒漁業で捕獲されたマゴンドウ 2 頭、ハナゴンドウ 1 頭、ハンドウイルカ 6 頭、スジイルカ 5 頭から胃内容物の採取を行った。

太地の追い込み漁業については、2015 年 11 月 11 日から 12 月 24 日および 2016 年 1 月 6 日から 2 月 28 日までの間、延べ 8 名の調査員が、生活史と系群の研究に用いる試料の採取を目的に、この間に水揚げされたマゴンドウ 46 頭、スジイルカ 428 頭、ハンドウイルカ 66 頭、ハナゴンドウ 123 頭、カマイルカ 2 頭の調査を行った。

沖縄県庁は、漁業管理の一環として、2015 年度漁期の突きん棒漁業 (石弓漁業) で捕獲されたマゴンドウとハンドウイルカを対象に、漁業者に歯牙と表皮標本の収集を依頼した。これらの試料は、年齢査定と系群分析のため国際水研に送付される予定である。

混獲された小型鯨類からの試料採取は、2015 年 4 月から 2016 年 3 月までの間、国際水研では実施されなかった。

表 4. 2015 年 4 月から 2016 年 3 月までに得られた小型鯨類の漁獲試料

鯨種	海域	標本の種類	採取頭数	保管 (Y/N)	担当機関
ツチクジラ	西部北太平洋	To, Ma, O, U, Te, E, V, and Sk	45	Y	国際水研
	オホーツク海	To, Ma, O, U, Te, E, V, and Sk	2	Y	
	日本海	To, Ma, O, U, Te, E, V, and Sk	10	Y	
南方型コビレゴンドウ (マゴンドウ)	西部北太平洋	To, Ma, O, U, Te, E, V, Sk, and St	66	Y	
ハナゴンドウ	西部北太平洋	To, Ma, O, U, Te, sk, and St	123	Y	
ハンドウイルカ	西部北太平洋	To, Ma, O, U, Te, sk, and St	66	Y	
スジイルカ	西部北太平洋	To, Ma, O, U, Te, sk, and St	428	Y	
カマイルカ	西部北太平洋	To, Ma, O, U, Te, and sk	2	Y	

E: 精巢上体, Ma: 乳腺, O: 卵巣, Sk: 皮膚, St: 胃内容物, Te: 精巢, To: 下顎歯, U: 子宮内膜, V: 脊椎骨骨端板.

4.3 座礁・漂着個体からの標本

座礁・漂着した小型鯨類からの試料採取は、2015 年 4 月から 2016 年 3 月までの間、国際水研では実施されなかった。

4.4 解析および技術開発

木白と石田梢(東京海洋大学)は、太平洋沿岸の小型捕鯨で2012年と2014年に捕獲されたツチクジラ79個体について、歯を用いた年齢査定を行うとともに、歯牙形態の年齢依存的な変化について分析した。

木白は、性成熟判定のため、小型捕鯨および突棒漁業で捕獲された計147個体の卵巣標本および、163個体の精巣組織標本(ツチクジラ、マゴンドウ、ハンドウイルカ、スジイルカ、マダライルカ、ハナゴンドウ)の分析を行った。また、肉体成熟判定のため、小型捕鯨で捕獲された222個体(ツチクジラ、マゴンドウ、タッパナガ)の脊椎骨標本を分析した。

前田ひかり(国際水研)は、沖縄の突きん棒漁業および太地の追い込み漁業で得られた計95個体(マゴンドウ、ハンドウイルカ)の歯牙を用いて年齢査定を行った。また前田は、性成熟判定のため、太地の追い込み漁業で得られたマゴンドウ12個体の卵巣標本および、計104個体(マゴンドウ、ハンドウイルカ)について精巣、乳腺、子宮内膜の組織標本観察を行った。

吉田は、日本周辺における小型鯨類の系群構造研究を進展させるため、漁業・漂着・バイオプシー等で得られた計240個体のmtDNA塩基配列を解読し解析に加えた。

大泉宏(東海大学)は、太地において小型捕鯨と突きん棒漁業で捕獲される小型ハクジラ類の食性研究を継続した。2015年5月に採集されたマゴンドウ2頭、ハナゴンドウ1頭、ハンドウイルカ6頭、スジイルカ5頭の胃内容物分析を行った。これらの採集標本数については4.2項も参照されたい。

金治は、食性解析を目的に、調査船による小型鯨類数種のバイオプシー標本から炭素・窒素安定同位体比の分析を進めた。

5. 小型鯨類の統計

5.1 暦年(2015年1-12月)の捕獲統計

小型捕鯨業の対象種、漁期、捕鯨船、捕獲枠および実際の捕獲頭数は4.2項に示した通りである。

いるか漁業については、1996年より、イシイルカを対象とした漁業について8月1日に始まり翌年7月31日に終わる管理期間、他の鯨種については10月1日に始まり翌年9月30日に終わる管理期間が設定されている。また和歌山県の漁業については、9月1日に始まり翌年8月31日に終わる管理期間となっている。一方、捕獲統計は、従来同様、国際捕鯨委員会のプログレスレポートガイドラインに則り、1月1日から12月31日までの暦年集計となっている。このため、一見、暦年の捕獲総数が、捕獲枠を超過するケースも生じ得るが、上述の水産庁による管理期間中の捕獲総数は、同期間に対して設定された捕獲枠内に十分留まっている。都道府県別、漁業種別の暦年捕獲統計を表5に示す。これらのデータは、各都道府県庁の報告に基づき、水産庁国際課によって収集されたものである。

2015/16年漁期の、いるか漁業の捕獲枠は、前漁期から変更され、イシイルカ型イシイルカ6,212頭、リクゼンイルカ型イシイルカ6,152頭、ハナゴンドウ469頭、ハンドウイルカ558頭、マダライルカ515頭、スジイルカ565頭、マゴンドウ151頭であった。なお、オキゴンドウ(100頭)とカマイルカ(360頭)の捕獲枠については2007/08漁期以降、変更はない。

2015年(暦年)の県別の操業許可期間は以下の通りである。いるか突きん棒漁業は、沖縄県で9ヶ月間(1月1日から8月31日及び12月1-31日)、和歌山県で8ヶ月間(1月1日から8月31日)、青森県、岩手県、宮城県、千葉県で6ヶ月間(1月1日から4月30日及び11月1日から12月31日)、北海道で4.5ヶ月間(5月1日から6月15日及び8月1日から10月31日)。追い込み漁業の操業許可期間は、和歌山県で9ヶ月間(1月1日から5月31日及び9月1日から12月31日)、静岡県で7ヶ月間(1月1日から3

月 31 日まで及び 9 月 1 日から 12 月 31 日) であった。

表 5. 2015 年の小型鯨類捕獲統計.

鯨種	漁業種	都道府県 ¹⁾	頭数 ²⁾
ツチクジラ	小型捕鯨	北海道	12
		宮城	21
		千葉	24
イシイルカ型 イシイルカ	突きん棒	岩手 ³⁾	11
宮城		4	
リクゼンイルカ型 イシイルカ	突きん棒	岩手	1,549
宮城		28	
カマイルカ	追い込み	和歌山	7
スジイルカ	突きん棒	和歌山	22
	追い込み		353
マダライルカ	追い込み	和歌山	59
ハンドウイルカ	突きん棒	和歌山	43
	追い込み		181
ハナゴンドウ	突きん棒	和歌山	13
	追い込み		211
南方型コビレゴンドウ (マゴンドウ)	小型捕鯨	和歌山	15
		千葉	5
	追い込み	和歌山	80
	突きん棒	沖縄	9
オキゴンドウ	突きん棒	沖縄	1

1) 小型捕鯨と追い込みの捕獲は水揚げ地ごとに記録。突きん棒の捕獲は船籍地ごとに記録。

2) 小型捕鯨の統計は調査員および捕鯨業者の報告に基づく。他の漁業の統計は、都道府県から水産庁への報告に基づき、それらは水揚げ伝票の集計（北海道と岩手県の突きん棒）ないし、個々の漁業者あるいは漁業協同組合からの報告の集計である。

3) 北海道沿岸で捕獲された突きん棒の捕獲数の一部は、漁業者によって正肉として水揚げされ、1 頭当たり 50kg とする比率を用いて、道県によってイシイルカ型イシイルカの頭数に換算されたものである（石川ら 1990）。

5.2 暦年 (2015 年 1-12 月) の非自然死亡

5.2.1 船舶との衝突

小型鯨類と船舶の衝突事例の情報収集体制はない。

5.2.2 漁業による混獲

暦年(2015 年 1-12 月)の、我が国漁業による小型鯨類の混獲死亡総数の暫定値を表 6 に示す。鯨種と頭数は都道府県から水産庁に報告されたものであり、それらは個々の漁業者ないし漁業協同組合からの報告に基づく。

表 6. 2015 年の小型鯨類混獲統計

鯨種	頭数	都道府県 ¹⁾	状態 ²⁾	漁具	漁獲対象種	連絡先
イシイルカ型	1	北海道	K	刺し網	不明	水産庁
イシイルカ	5		K	定置網		
ネズミイルカ	8	北海道	K	刺し網		
スナメリ	1	大阪	K	刺し網		
	1	岡山	K	その他		
	1	山口	D	刺し網		
	3	長崎	K	刺し網		
	1	熊本	D	定置網		
カマイルカ	1	青森	D	刺し網		
	5	岩手	R	定置網		
	6	石川	A	定置網		
セミイルカ	1	北海道	K	その他		

1) 漁具の設置された都道府県ごとに記録

2) 状態: A = 生存(水族館), D = 死亡(廃棄, 埋設等), K = 死亡(販売ないし標本保管), R = 生存(放流)

5.3 座礁・漂着した小型鯨類

暦年(2015年1-12月)の、我が国における小型鯨類の座礁漂着頭数の暫定値を表7に示す。鯨種と頭数は都道府県から水産庁に報告されたものであり、それらは個々の漁業者、漁業協同組合および一般からの報告に基づく。なお、表中の内死亡頭数は、座礁漂着で死亡したと報告されたものの数である。

表 7. 2015 年の小型鯨類座礁漂着統計

鯨種	頭数	内死亡頭数	連絡先
イシイルカ型イシイルカ	10	10	水産庁
ネズミイルカ	4	4	
スナメリ	141	140	
カマイルカ	13	13	
スジイルカ	19	19	
ハセイルカ	2	2	
ハンドウイルカ	2	2	
ミナミハンドウイルカ	2	2	
シロハイルカ	3	3	
ハナゴンドウ	6	6	
コビレゴンドウ	1	1	
カズハゴンドウ	161	115	
ユメゴンドウ	2	2	
アカボウクジラ	3	2	
ハブスオウギハクジラ	2	2	
オウギハクジラ	9	9	
コブハクジラ	1	1	
オガワコマッコウ	5	5	
コマッコウ	5	4	
種不明鯨類	22	22	

この他、日本鯨類研究所(104-0055 東京都中央区豊海 4-5)および国立科学博物館(305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1)も自主的に座礁漂着に関連した情報を収集している。

5.4 過去の統計

過去の統計の修正はない。

6. 小型鯨類に関するその他の研究分析

対象期間中、該当機関によって上記以外の小型鯨類研究はなされていない。

7. 引用文献

石川創、藤瀬良弘、斎野重夫、銭谷亮子 1990. III. オホーツク海及び三陸沖海域での突きん棒船乗船調査. p53-78. 平成元年度日本周辺イルカ生物調査報告書. 78pp. 財団法人日本鯨類研究所.

8.論文公表

8.1 公表済みあるいは印刷中の論文

Kanaji, Y., Okazaki, M., Watanabe, H. and Miyashita, T. 2016. Biogeography of small odontocetes in relation to wide-scale oceanographic structure in the North Pacific Ocean. *Fisheries Oceanography* 25: 119–132.

Kanaji, Y., Miyashita, T., Yoshida, H., Okazaki, M. and Kishiro, T. 2015. Abundance estimates of *dalli*-type and *truei*-type of Dall's porpoise *Phocoenoides dalli* in the western central part of the Sea of Okhotsk, July–September between 1990 and 2010. *Fisheries Science* 81: 611-619.

金治 佑・宮下富夫 2016. シヤチ. In 太田朋子編 国際漁業資源の現況. 水産庁・水産研究・教育機構
http://kokushi.fra.go.jp/H27/H27_56.pdf . 2pp.

木白俊哉 2016. 新刊書紹介,新版クジラの生態. 日本水産学会誌 82 巻 2 号 p190

木白俊哉 2016. ツチクジラ 太平洋・日本海・オホーツク海. In 太田朋子編 国際漁業資源の現況. 水産庁・水産研究・教育機構 http://kokushi.fra.go.jp/H27/H27_49.pdf. 5pp.

木白俊哉 2016. 小型鯨類の漁業と資源調査(総説). In 太田朋子編 国際漁業資源の現況. 水産庁・水産研究・教育機構 http://kokushi.fra.go.jp/H27/H27_47.pdf. 3pp.

宮下富夫 2015. イシイルカ. In 太田朋子編 国際漁業資源の現況. 水産庁・水産研究・教育機構
http://kokushi.fra.go.jp/H27/H27_48.pdf. 5pp.

吉田英可 2016. スナメリ. In 太田朋子編 国際漁業資源の現況. 水産庁・水産研究・教育機構
http://kokushi.fra.go.jp/H27/H27_55.pdf. 5pp.

8.2 未印刷の発表など

石田梢・木白俊哉・加藤秀弘 2016. ツチクジラ歯牙磨耗の年齢依存的变化について. 平成 28 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, 188p.

Iwahara, Y. , Minamikawa, S., Miyashita, K. and Mitani, Y. 2015. Spatial distribution factors of Pacific white-sided dolphins around northern Japan. 21st Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals. San Francisco, December 2015.

白井俊樹・鈴木美和・朝比奈潔・瀬川太雄・木白俊哉 2015 バンドウイルカにおける主要熱産生部位の推定 平成 27 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集

Kanaji, Y., Kishiro, T. and Miyashita, T. 2015. Principal of management methodology on small cetacean fisheries, in Japan. Abstracts for Vth International Wildlife Management Congress. pp, 164–165.

Kanaji, Y., Okazaki, M. and Miyashita, T. 2015. Estimation of spatial distribution for small odontocetes using three distinct habitat models. Abstracts for International Symposium of Developing New Ocean Provinces on Their Biogeochemistry and Ecosystems. p. 41.

Kanaji, Y., Okazaki, M. and Miyashita, T. 2015. Spatial distribution of small cetacean species in relation to physical environments in the North Pacific Ocean. Abstracts for CLIOTOP 3rd Symposium. p. 74.

船坂徳子・桐畑哲雄・松本修一・木白俊哉 2016. ハンドウイルカの背びれに装着した簡易標識の有効性. 平成 28 年度日本水産学会春季大会講演要旨集 p52

吉田英可・中村清美・相磯智美・赤木 太・石川 恵 2016. 瀬戸内海におけるスナメリの分布と個体数 平成28年度日本水産学会春季大会講演要旨集, 53p.